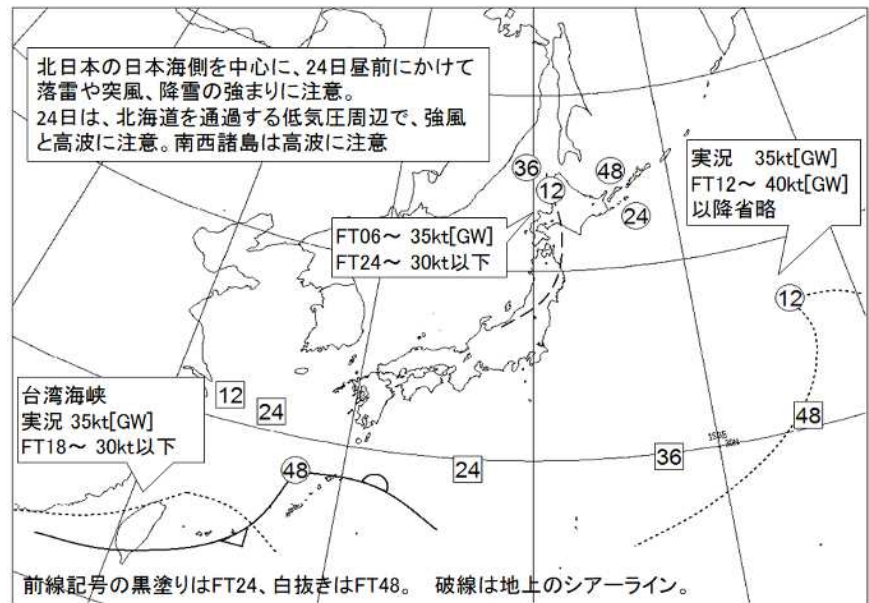


短期予報解説資料 2019年3月24日03時40分発表

気象庁 予報部

1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は冬型の気圧配置。東日本から南西諸島にかけて気圧の傾きがやや大きく、伊豆諸島や南西諸島で波が高い。
- ② 朝鮮半島から東進してきた500hPa 5280~5460m 付近のトラフと沿海州から南東進してきた500hPa 5100m 付近のトラフが、位相を合わせて北日本から西日本を通過中。対応する低気圧が北海道の西にあり東南東に進んでいる。低気圧から南にのびるシアーライン近傍では対流雲が発生し発雷を検知。
- ③ 北緯40度、東経100度付近には、500hPa 5580~5640m 付近にトラフがあって、ゆっくり東南東に進んでいる。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項②のトラフが24日朝にかけて北日本から東日本を通過。北日本では、500hPaで -42°C 以下の寒気が流入する。1項②のシアーラインは24日朝を中心に北日本を通過。大気の状態が不安定となるため、落雷や突風、降ひょう、降雪の強まりに注意。1項②の低気圧近傍では強風や高波にも注意。
- ② 24日は、西日本から東日本は、東シナ海へ移動する高気圧に覆われる。高気圧が日本の東まで移動する25日朝にかけて、日本付近は南高北低の気圧配置となり穏やかに暖気が流入する。北日本では25日朝から夕方にかけて、500hPa 5280m 付近のショートトラフが浅まりながら北海道を通過するため、北日本を中心に一時的に雪や雨となる。
- ③ 1項③のトラフ接近に伴い、東シナ海では前線を伴った低気圧が25日夜までに発生して、南西諸島に接近する。850hPa $\theta_e 327\text{K}$ 以上の暖湿気が流入して不安定となる。低気圧周辺では強風や高波、落雷や突風、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想、降水分布はMSMも参考とする。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ① 大雪ポテンシャル(06時からの24時間)：高い所(注意報級以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：沖縄 4m、北海道・東北・伊豆諸島・九州南部・奄美 3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。